

新宮山彦ぐるーぷ第2142回

平治宿水場径改修工事とお堂にお盆の御供

◇ 実施日； 8月1日(日) 晴のち一時雨

◇ 参加者； 沖崎吉信、児島道夫、橋本梓、濱野兼吉、中前偉、

生熊敏男・千満子、大江加予子、畑林清子、山川治雄、西克、高階美根子、梶野照雄、乾克己、坂野良

15名

池郷林道の通行止めが続いているため、今回も白谷林道を経由して持経宿に向かったが、行きに児嶋車、帰りに中前車がパンク。持経宿のお堂に巣くったスズメバチに一名が刺されるハプニングがあった。



白谷林道入り口で



持経宿に到着



平治宿に到着

何年か前より、平治宿水場径のガレた沢部分の荒れ方が激しくなり、改修の必要が生じていた。検討の結果、沢を迂回して新しく道を付け直すことになり、昨年の6月21日に現地ルートを検討、10月4日に迂回ルートの設定を行い、テープで仮の目印を付けた。この水場径改修を令和3年のメイン行事と位置付けたが、コロナの影響や週末ごとの雨が続き、延び延びになっていた。



水場径改修に向かう

新道の工事

ほぼ完工

本日より第一回目の工事となつて、15名と多くの参加を頂き思った以上に工事が進み、全体の7割近くの新道が出来上がった。着工までの準備期間が長かったので、その間に山川さんが調達してくださった鉄パイプ(60〜70本)を平治宿に向かう度に運搬して現場付近にデポしていたことや、村吉さんが木製杭や半割の丸太などを単独で平治宿まで運んでくださった事が、今日の工事の大幅な進捗に大きく寄与している。改めて、資材の調達や運搬などの事前の準備が重要であることを再認識した一日だった。

加えて、15名と多くの皆さんの参加を頂いたこと事も、工事が早く進んだ要因だ。

午前9時、白谷林道ゲート前に全員が集合。松原市の坂野君は釈迦ヶ岳以来回目の参加、山川さんの友人、西さんは初めて歩くコースとご参加くださった。

前々日、持経宿に入宿された豊嶋さんからの情報の通り、林道は一度も車を停めて落石除去することは無く、50分で持経宿に着いた。昨日から持経宿に入っている村吉さんが、途中の沢から流れ出た石をツルハシで処理されていた。最後に到着するはずの村吉さんが先に到着、児嶋車がパンクでタイヤ交換中、と知らせて下さった。

持経宿で村吉さんから半割の丸太(2.7m)4本を受け取り、10時過ぎに平治宿に向けて出発。暑いので休憩を多くとって、1時間で平治宿に到着した。途中の奥駆道に異常は無いが、雲が増え始めて、一雨来そうなお天気になってきた。

平治宿に到着後、すぐに早めの昼食を済ませ、女性陣の皆さんに小屋内の清掃をお願いして、新道工事現場に向かう。

山川さんは栈木の調達、3〜4mの栈木を現場に運び鉄杭を打って固定し、山側の土を削り平坦な道にする。少し急な部分は5〜7段の階段を作った。特段、分担の割り振りも必要なく、各々が自分の役目を決めて作業はどんどん進んでいった。

小屋での作業を終えた女性陣が現場へ降りてきて下さり、石を集めたり不足していた鉄杭を小屋から持ってきて下さったり、と大助かりだった。

午後一時半過ぎに、やはりポツポツと雨粒が落ちてきた。新道も7割近く完成し、残す所は約20m位になった。あと一回、少人数

でも完成の目途が立ったので作業を終了する。



工事中を知らせる

本日の参加者

雨の中持経宿に戻る

小屋に戻ってユジマカフェ開店、児嶋さんは平治宿に到着後水場に降りて汲んできた水でコーヒーを淹れてくださった。

雨具を着用して持経宿に戻る。雨はさほど激しくはならず、小雨が降ったり止んだりだった。尾根筋ではあるが、アブやブヨなどの虫が多く、歩行中も体にまとわりつくので閉口した。

千年桧のお堂で櫛を交換して、午後3時前に持経宿に戻った。

帰着後、帰り支度を始め、採取した櫛をお堂に供えたり盆供を行っている時に気付く。外壁の内側に巣がありそうだ。すぐ傍にいた坂野君が背中を刺されて騒動になる。

殺虫剤や防護できる服装が無く、雨脚も強くなってきたので今日の処置はできないが、再度出向いて巣の除去を行う必要がある。何かとあわただしい一日だった。帰路、ゲート手前で中前車がバ

ーストするおまけ付きだった。

(記；沖崎)

行動タイム

白谷林道ゲート 09：05→09：55 持経宿 10：18→11：20 平治宿 14：00→14：53 持経宿 15：14→16：05 白谷林道ゲート